

平成18年3月20日

魅力と活力ある県立高校づくり検討委員会
会長 井上定彦様

島根県教育委員会
教育長 広沢卓嗣

次の事項について理由を付して諮問します。

平成21年度以降の魅力と活力ある県立高校のあり方について

(理由)

本県では、現在「県立学校再編成基本計画」に基づき、平成11年度から20年度までを計画期間として、魅力と活力ある県立高校づくりに取り組んでいるところです。

この計画期間内において、県内の中学校卒業生数は、約2,600人減少すると見込んでいますが、平成21年度から30年度までの10年間においても、減少のペースは緩くなるものの下げ止まることなく、約1,500人減少すると予測しています。これに伴い、中山間地域の高校を中心に、学校の小規模化が一層進行していくものと考えています。

また、「しまね教育ビジョン21」に述べるとおり、今後、技術革新や国際化・情報化の一層の進展、本格的な少子高齢化社会の到来などを背景として、我が国の産業・就業構造も大きく変化し、生徒の興味・関心や進路希望も、これまで以上に多様化していくものと思われます。

さらに、三位一体の改革や道州制の議論など、国と地方のあり方が大きな課題となっておりますが、そうした動きが、将来の高校教育に大きな影響を与えていくことも考えられます。

このように高校教育を取り巻く環境が大きく変化していく中、「魅力と活力に溢れた高校教育の実現」「社会や生徒のニーズに対応した高校づくり」「島根の将来を担う人材の育成」などの観点から、新しい時代、新しい流れに対応した島根の高校教育を構築していくことが強く求められております。

そのため、平成21年度から10年間を展望した、中長期の県立高校のあり方、進むべき方向をお示しいただきたく、ご審議をお願いするものであります。

(検討事項)

(1) 生徒数の一層の減少に対応した高校のあり方

高校の適正な配置について
高校の適正規模について
高校の統廃合基準について
その他関連する事項

(2) 生徒の興味・関心、能力・適性、進路の多様化などに対応した高校のあり方

学校の選択幅の拡大(学校の特色化)について
新しいタイプの高校について
その他関連する事項

(3) 社会の変化に対応した高校・学科のあり方について

社会ニーズの変化、技術の進展等に対応した高校・学科について
その他関連する事項

(4) 生涯学習社会に対応した高校のあり方

地域の生涯学習センター的機能の強化について
地域と高校が連携した教育について
その他関連する事項